



■ 全能クラウド

三井住友銀行、三菱東京 UFJ 銀行

日経コンピュータの4/27号の見出しは「全能クラウド」という思い切ったコピーでした。

上の2つの銀行は言わずと知れた3メガバンクのうちの2行、そして、クラウドの採用で話題になった2行です。

三井住友銀行は、2016年5月に[マイクロソフトのクラウド \(Office365、Azure\)](#)の採用を発表しました。

マイクロソフトによる発表: <https://news.microsoft.com/ja-jp/2016/05/20/160520-smbc/>

そして、三菱東京 UFJ 銀行は、2017年1月にシステムを [Amazon.com のクラウドサービス \(Amazon Web Services\)](#) に移行すると発表しました。

日本経済新聞社による記事: <http://www.nikkei.com/article/DGXLZO11980880R20C17A1NN7000/>

銀行がクラウドに移行することで、[クラウドの利用範囲\(ユーザーの範囲\)](#)がほぼ最終形になったと言えると思います。銀行のシステムは個人の資産を管理する「もっともセキュリティが厳しいシステム」という理由で、ハードウェアが社内に入れられるのが常識でした(機密性をどこまでも突き詰めると、ハードウェアはネットワークから外するのが理論的に最適です)。

また、金融(銀行や保険、証券)の基幹システムは「勘定系」といわれていて、1日あたりに処理されるデータ数がけた外れに多いことで知られています。筆者がかつてメーカーの基幹システムを運用していたとき、データの処理件数は1日に1000万のオーダー(桁)でした。その経験から推測すると、勘定系の基幹システムの1日の処理件数は1億~10億のオーダーになるはずで、それだけの分量のデータを処理するには巨大なコンピュータが何台も必要になります。

このような背景を踏まえ、銀行が

- ・クラウド(メール、サーバー、データセンター)が[強固なセキュリティ](#)をもつこと
- ・クラウド(サーバー)が[強力な処理能力](#)をもつこと

を認めたということは、先ほど述べましたように、クラウドの利用範囲がほぼ最終形である、と言えます。「ほぼ」と付けましたのは、日本では行政機関での利用が遅れているためです。

さて、「なぜ、金融機関がクラウドに移行するのか？」については3つ理由があるように思われます。

- ・[ワークスタイルの変革](#): 妊娠・出産や介護による離職の防止、従業員のワークライフバランスへの配慮
- ・[コスト低減](#): 機械は必ず買い替えなくてはならない。購入費用以外にもスペース費用、空調費用、電気代、人件費がかかる。
- ・[災害対策](#): 震災などで通勤が不可能な状況となっても事業を継続する。

銀行といえば巨大企業の代名詞ですが、

企業規模を問わず、銀行と同様のシステムを使っただけなのがクラウドの最大のメリット

弊社のお客様でも、マイクロソフト Office365 と Amazon Web Services を合わせて 30 社(団体)様以上でご採用いただいております。この機会に是非ご検討ください。